



かもみーる通信



50号 2014年8月

創刊50号に寄せて



トピックス

- * 創刊50号に寄せて
- * なでしこ教養セミナー
- * カモミールこども大学
- * 出前講義
- * シンポジウム開催案内

副学長（多様性人材活力推進担当）/ 男女共同参画推進室長

林 正子

2010年7月に岐阜大学男女共同参画推進室ニューズレター「かもみーる通信」創刊号を発行して、早くも4年の月日が経ちました。当初の目標であった毎月発行を実現して、今号が通算50号となります。管見によれば、毎月やすむことなく男女共同参画推進に係るニューズレターを発行している大学は、日本全国見渡しても、岐阜大学だけです。

（自画自賛、手前味噌、どうぞご寛恕ください。）



当初は2頁か4頁、第9号（2011年3月）以降は常時4頁の紙面にて、男女共同参画推進室と人材開発部職員育成課（旧総務部人事労務課）が中心となって取り組んできた種々の活動や、構成員の皆さんにご利用いただける諸制度などを紹介してきました。文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」による「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」（2010年度から3年間）の諸活動や構築した制度について、また、補助金による事業終了後には、ワーク・ライフ・バランスの取り組みを強化し、支援対象を男性研究者にも拡大してきた道程を概観していただくことができます。

研究補助員配置制度をはじめとする、子育てや介護などのライフ・イベントと研究の両立支援、また、「サイエンス夢追い人育成プロジェクト」など、女性研究者育成の一環としての取り組み、加えて、全5学部での教職員を対象とするFD・SD、各種啓発セミナーやシンポジウムなど、男女共同参画推進のための意識改革や制度紹介を趣旨とする活動、さらに、岐阜県内の自治体との意見交換会（ぎふ清流参画ネット）や各種女性団体との交流など、地域との連携活動などについても紹介してきました。

お子さんがいらっしゃる教職員の方々に喜んでいただいている「保育園だより」（ほぼ毎号掲載）、「カモミールこども大学」（今号掲載）なども楽しんでいただくとともに、『女性研究者ロールモデル集 輝く先輩からのメッセージ』はじめ、これまで発行してきたさまざまな冊子や、相談窓口と交流の場であるカモミール・カフェの活動や貸出用図書・DVDについても、随時、ご案内してきました。また、男女共同参画推進室員の着任や交替についても、折に触れてご紹介してきました。顧みればこの4年5ヶ月、スタッフの皆さんとの男女共同参画推進活動の一齣一齣が、走馬燈のように目に浮かびます。

岐阜大学では、今後も、「岐阜大学男女共同参画行動計画」に則り、全学をあげて諸課題に取り組むとともに、性差のみならず、年齢・国籍・職掌の違い、障がいの有無など、異なる属性による互いの違いを尊重し、構成員ひとりひとりが能力を遺憾なく発揮できる大学づくりに邁進してゆきます。男女共同参画推進室のシンボル花「カモミール」「親交」「逆境に負けない強さ」の花言葉のごとく、今後も堅実着実な取り組みを進めることによって、多様性人材活力発揮に向けた活動の輪が、学内外に広がってゆく

ことを願ってやみません。「かもみーる通信」の記事が、支援と協働の輪をさらに広げてゆく一助となれば幸いです。

記念すべき第50号発行にあたり、皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。





なでしこ教養セミナー



8月2日(土)、8月9日(土)に岐阜大学サテライトキャンパスにて開催しました。

「介護を必要としないための高齢者の健康づくり」

医学系研究科 辛 紹熙 助教

日本の高齢化における現状、介護保険制度、介護予防事業及び高齢者の転倒予防に関する内容でセミナーを実施しました。多くの方にご来場いただきありがとうございました。

日本は世界一の長寿国ですが、その理由としては、優れた医療制度、高齢であっても活動的に生活できるようにする社会的支援、家族の一員であるという意識及び健康的な食生活が挙げられます。一方、高齢者が要介護状態にならず自立した日常生活が送れることは健やかな老後生活の基本です。高齢者の転倒は、骨折、寝たきり等の要介護状態になる原因の一つですが、転倒予防、若しくは転倒しても骨折しない体づくりのためには、栄養バランスのよい食事、十分な水分摂取、日常生活の中で動ける場面を見つけて積極的に身体活動量を増やす努力が必要です。転倒リスクアセスメント票を用いて事前に転倒リスク要因(身体機能、疾病・身体症状、物理的環境、性格・行動要因等)を把握することも重要だと考えられます。



「アーミッシュのライフスタイルから現代社会を考える」

教育学部(家政教育講座) 大藪 千穂 教授



アメリカで現在でも200年来のライフスタイルを実践しているアーミッシュ(Amish)の人々。彼らはキリスト教プロテスタントの小会派で、再洗礼派として知られています。文明や現代社会を知りながらも馬車に乗り、電気を使わず、独自の服装を着て、農業を主とした生活を送っています。自分達で生活の歯車をゆっくり調節している

彼らのライフスタイルから、私達が学べることは多くあります。

彼らのライフスタイルで最も重要な点は、自己決定、自己管理の徹底です。モノを利用、使用する場合に、それらを選択的に利用したり、猶予期間を設定してから決定しています。また関係性が極めて強く、密なコミュニケーションによって、価値観を共有しています。

今後我々は、現代社会が持つ大きな自由度のもとで、十分な情報を取り入れ、個々人の中に豊かな世界を築き、自己実現を図ることが重要です。そして、人間にとって幸せとは、進歩とは何かを振り返る時間が必要でしょう。



開講日	時間	会場	内容	講師
2014.8.30(土)	14:00-15:30	岐阜大学 サテライトキャンパス	遺伝子組換え作物を考える (植物遺伝育種学)	山根京子 (応用生物科学部助教)
2014.10.18(土)	10:30-12:00	じゅうろくプラザ	ことばとコミュニケーションの心理 滑らかに話せない (聴覚言語障害学)	村瀬 忍 (教育学部教授)
2014.10.25(土)	14:00-15:30	岐阜大学 サテライトキャンパス	衛星データがとらえるアジア・日本・岐阜 (環境科学)	魏 永芬 (流域圏科学研究センター准教授)
2014.11.29(土)	14:00-15:30	岐阜大学 サテライトキャンパス	生活の近代化と生活改善運動 和洋折衷服を考案した尾崎芳太郎の挑戦 (生活文化史、家庭教育)	夫馬佳代子 (教育学部教授)
2014.12.27(土)	14:00-15:30	岐阜大学 サテライトキャンパス	コミュニケーションスタイルの異文化間比較 (言語学)	橋本永貞子 (地域科学部教授)

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の共同プログラム「女性の活躍 なでしこ教養セミナー」とは?

岐阜大学の女性教員10名による、それぞれの専門分野を活かしたりレール講義(全10回)で、コンソーシアム加盟大学の学生、とくに女子学生に対しては、女性研究者としてのロールモデルを提示するとともに、教職員と一般市民の方々には、幅広い知識を涵養する教養講座としての機会を提供することを趣旨としています。



カモミールこども大学



平成26年8月21日・22日に、本学の教職員の子ども（小学生）を対象に「カモミールこども大学」を開催し、20名の小学生と10名のアシスタント学生が参加しました。

この企画は、子どもの職場理解の促進及び子どもの長期休暇中における本学教職員への保育環境の提供を目的としています。教育学部、工学部、金型創生技術研究センター、岐阜フィールド科学教育研究センターの教職員の方々のご協力により、様々な体験学習をおこなうことができました。

グループごとに協力して活動し、楽しく有意義な2日間を過ごすことができ、大好評でした。

21日

教育学部国語教育
山田敏弘先生と
方言かるたとりを
しました。



えー!!
『B紙』って
方言なのおー?!

金型創生技術
研究センター長の
山下実先生と
学生さんにプラモデルの
射出成形を見せて
もらいました。



ロボットの
プラモデルを
もらったよ
わーい!

教育学部美術教育辻泰秀先生と学生さんに
教えてもらって色んな作品を作りました。



蛍光塗料を
指を使って
ベタベタ



タイルモザイク制作中



キレイにできました

22日

～天気の意味と太陽光発電～
工学部の小林智尚先生と色んな物の
温度を測ったり、人工の雲や、
ソーラーカーをつくりました。

空の温度だって測れるんだ!!
雲の温度って低いんだね!



教育学部保健体育 熊谷佳代先生と
紙風船で体操したり
ダンスをしました!



岐阜フィールド科学教育研究センター長の
田中逸夫先生と職員さんに果樹園を見せても
らってから、ピザとマヨネーズを作りました。

果樹園を
見学中
です



ピザ生地を
こねこね



光を当てたら
車が動いたよ!



ボトルの中に
雲ができたよ!



おもいっきり体を動かすと
気持ちいいね!





岐南工業高校 出前講義



7月17日(木)に工学研究科博士後期課程2年劉媛媛さん、同研究科博士前期課程1年田中志都加さん、同研究科博士前期課程1年松本千絵さんが、岐阜県立岐南工業高等学校の1~3年生の女子生徒35名を対象とした出前講義をおこないました。今回は本取り組み初の工業高校においての実施でした。受講した女子生徒からは講演とその後の交流会で多くの質問が出されました。工業高校での女子大学院生による出前講義の実施は注目度も高く、当日の様子は中日新聞、岐阜新聞でも紹介されました。



劉媛媛さん



田中志都加さん



松本千絵さん



シンポジウム開催のご案内



林 正子副学長(多様性人材活力推進担当)がコーディネーターを務める「少子化問題を考える県民シンポジウム」が、9月6日(土)に開催されます。入場は無料です。どうぞご来場下さい。

少子化問題を考える 県民シンポジウム

少子化という危機を！

日時：平成26年9月6日 15:00~12:30 (開場 9:00)

会場：大垣市情報工房スィンクホール

基調講演
講師：村木 厚子 厚生労働事務次官

「子どもたちの未来のために、今、少子化問題を考える」

パネリストディスカッション

日時：平成26年9月6日(土) 10:00~12:20

会場：大垣市情報工房スィンクホール

基調講演

講師：村木 厚子 厚生労働事務次官

「子どもたちの未来のために、今、少子化問題を考える」

【会場へのアクセス】

JR東海道本線 大垣駅から車で5分 バスで10分

国道21号 線と合インターチェンジから車で2分 駐車場有



【申し込み方法】

郵送：〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬1-12岐中中日ビル7F(株)中日アド企画「少子化問題を考える県民シンポジウム」事務局宛

E-mail: gifu-sympo0906@chunichi-adnet.co.jp宛

FAX: 058-265-6219 (FAX用参加申込書は、カモミール・カフェ入口横のチラシ裏にあります。チラシはご自由にお持ちください。)

「少子化問題を考える県民シンポジウム参加希望」と明記の上、お名前・ご住所・電話番号・参加人数・連絡先メールアドレス、託児希望の有無などを記入の上、お送りください。

岐阜大学男女共同参画推進室(人材開発部職員育成課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/sankaku/>

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel: 058-293-3378 Fax: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

